

# 医師を目指す高校生へ

医学部を目指す高校生が医師の心構えなどを医療現場で学ぶ「早期医療体験プログラム」。4回目となった今回、日本医師会の特別協賛を得、過去の参加者を対象にした報告交流フォーラムが8日、読売新聞東京本社（東京都千代田区）で開かれた。日本医師会の横倉義武会長、順天堂大学心臓血管科の天野篤教授、大阪心臓血管科の澤芳樹教授が、それぞれ早期医療体験の意義について報告。その後、横倉会長らがプログラムに参加した高校生などの質問に直接答えるかたちで、有意義な交流を重ねた。



世界医師会会長・日本医師会会長  
横倉 義武

日本を代表する心臓外科医の天野篤先生と澤芳樹先生が、今後の医療を担っていくという意欲的な若者たちと、医師になることや医師としての仕事の意義について話し合う機会を持ちたいという中で、この早期医療体験プログラムが始まったと聞かれています。将来の医師を育てることは日本医師会の重要な仕事でもあり、今年、本プログラムのサポートをさせていただきます。

## 知識や技術だけではなく、心を大切にする医師に

集約し、政府などに対して様々な提言を行っています。開業医の団体も思っている人も多いのですが、医師会の会員の半分以上が勤務医の先生方です。ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥先生も会員です。最近、社会的な問題となっている医師の働き方改革については、地域医療の継続性と医師の健康への配慮をいかに両立させるかが重要であり、その解決策を探っているところです。

私は世界医師会の会長も務めており、ボスニア・ヘルツェゴビナで開かれた会議に出席して先ほど帰国しました。ボスニア・ヘルツェゴビナでは紛争によって、地域の人口が大幅に減ってしまい、医療的にも様々な課題を抱えています。それを一つ一つ解決し、恒久的な平和を見据えた医療を築いていこうと、東南ヨーロッパの医師たちが集まって会議を開いたわけですが、戦争や紛争の悲惨さと共に、国民皆保険など、日本の医療を支える仕組みがいかに素晴らしいものかを、改めて感じて帰ってきました。

現在の医療は、医師だけでなく、看護師や薬剤師など、違う職種の人たちがチームを組むことで成り立っています。皆さんにはその方たちと互いに尊重し合い、知識や技術だけではなく、心を大切にすることが大切になってほしい。本日は日本の医学界のトップの先生方と一緒に話をすることで、医師になろうとする思いをより強くしてもらいたいと思います。



順天堂医院院長、順天堂大学心臓血管外科教授  
天野 篤

## 人を助け、役立つことをゴールに

なぜ、皆さんに医療体験をしてもらうのか。私自身小学生の時に親戚の病院で医師が働く場面を間近に見たことが、医師になろうと思ったことにつながっているからです。ですから、この医療体験では、皆さんが働いている現場側の目線や動線を体験してもらおうようにしています。自らの志で、医療の現場を見て、体験する。それだけでこのプログラムの目的の大半は満たされていると思っています。後は皆さんが、現場をどう見て、どう感じるかということを感じたかということを感じてもらうこと十分です。医師になったら、この時の体験が必ず生きてくると思うので、覚えておいてほしいと思います。

「生きる」ということは周囲に対して責任を果たすこと。医師であれば、医療を通してその責任を果たさなければならぬ。医学部に入ることは医師になることがゴールではありません。医師として少しでも高い技術・多量の経験を持つことで、今まで助けられなかった人の役に立つことをゴールにしてほしいと思っています。

「一生懸命」ということは周囲に対して責任を果たすこと。医師であれば、医療を通してその責任を果たさなければならぬ。医学部に入ることは医師になることがゴールではありません。医師として少しでも高い技術・多量の経験を持つことで、今まで助けられなかった人の役に立つことをゴールにしてほしいと思っています。

「一生懸命」ということは周囲に対して責任を果たすこと。医師であれば、医療を通してその責任を果たさなければならぬ。医学部に入ることは医師になることがゴールではありません。医師として少しでも高い技術・多量の経験を持つことで、今まで助けられなかった人の役に立つことをゴールにしてほしいと思っています。

「一生懸命」ということは周囲に対して責任を果たすこと。医師であれば、医療を通してその責任を果たさなければならぬ。医学部に入ることは医師になることがゴールではありません。医師として少しでも高い技術・多量の経験を持つことで、今まで助けられなかった人の役に立つことをゴールにしてほしいと思っています。

**早期医療体験プログラムとは**  
順天堂大学の天野篤教授が主導し、読売教育ネットワークと連携して2015年に始めた医療体験プログラム。医学部を目指す高校生を対象に、順天堂大学に続き、17年から大阪大学の澤芳樹教授も生徒を受け入れた。参加高校生は、4日5日間、心臓外科手術の現場などに立ち会う。医療の現場を直視し、医師になるための心得と覚悟を学ぶ。18年、日本医師会は本プログラムの意義に賛同し、特別協賛することになった。



真剣な表情で話を聴く高校生たちに「患者さんに寄り添う心を忘れないでほしい」と語る横倉氏

プログラムに参加させてもらって、高校生の皆さんから色々教えてもらっています。参加者が皆、本気なので医師としてプロになる気持ちでこのプログラムに参加しているのがとてもいいと思います。では、プロとは何か。やはり仕事のことになるわけですから、人生をかける価値のある仕事、すなわち天職を皆さんは見つけてもらいたい。そして医師として大事なのは「ボランティア」であるべきだと思います。仕事を終えて

志を大切に、夢を持って進んで

やれやれと思って帰されても、病院から呼び出されることは当たり前。医師は自分が受けた以上の恩恵を社会に還元しなければいけないという考えが私の考えです。もう一つ、「倫理」を常に考える医師であってほしい。生命を預かり、その責任を全うすること自体が医師の最も重要な、魂ともいえる根幹の姿勢です。そのために、皆さんには医師になって人を助けたい、様々な役割を担いたい、といった志を大切に、夢を持って進んでほしいと思います。

## 医学生がこれからの医療を考えるための情報誌 DOCTORASE

これからの医療の担い手となる医学生のために日本医師会が発行している無料冊子。「教科書だけでなく、広く社会を、ひとを、見つめてほしい。一人ひとりが、自ら学び、考え、行動し続ける」そんな願いを込めて創られています。WEBサイトや電子書籍サービスアプリ「日医Lib」でもご覧いただけます。

詳しくは、WEBサイトへ [ドクターアゼ 検索](http://www.med.or.jp/doctorase/vol26/index.html)

全国の医学部（一部高校・予備校）で無料配布中

## 貴重な話に真剣なまなざし 同世代の交流も



医師による報告に続き、参加者の様々な疑問に答える交流セッションも行われた。プログラム参加者に加え、医学部進学を考えている高校生1年生ら計79人が3つのグループに分かれて、横倉会長、天野教授、澤教授とひざをつき合わせて医師になるための心構えなどについて話し合った。

例えば、地域医療の現状について質問した高校生に対し、横倉会長は「私自身、地域に人がいる限り、医療を提供しなければならぬというつもりで取り組んでいる」と話しかけた。さらに「医学の知識や技術を学ぶことはもちろん大切だが、一番大切なのは、人に尽くすために医師になるという気持ちや忘れないこと」と、医師としての心構えについても触れ、参加者は熱心にうなずいていた。

このほか、医師の国際的な貢献の可能性やワーク・ライフ・バランスの現状などについても質問が相次ぎ、横倉会長は自らの経験を振り返りながら丁寧に答えていた。

# 知ってほしい！ 日本医師会のこと

誰もが、いつでも、どこでも良質な医療を受けられるよう様々な取り組みを行っている日本医師会。その存在意義や具体的な活動内容について、改めてQ&A形式でご説明します！

**Q1** 日本医師会ってどんな医師の集まりなの？

**A** 開業医と勤務医の割合はほぼ半々です。会員約17万人のうち、開業している医師（開業医）の割合は、ほぼ半分。ノーベル賞受賞者の山中伸弥大いPS細胞研究所長のような研究者も日本医師会の会員です。

**Q2** 日本医師会とはどんな組織なの？

**A** 国民と共に歩む医療の専門家集団です。患者さんや医療従事者の声を基に様々な政策の提案や提言を行うとともに、大規模災害の際には被災地に医師を派遣するなど、国民に寄り添った活動を行っています。

**Q3** 日本医師会は何を目指しているの？

**A** 適正な医療が提供可能な体制の構築を目指しています。目指しているのは、誰もが過不足のない医療を受けられること。医療費が伸び過ぎないように、「健康寿命の延伸に向けた取り組み」や「糖尿病のハイリスク群への早期介入」なども進めています。